

養浜後の七里ヶ浜の現地調査

一般財団法人土木研究センター

なぎさ総合研究所長兼

日本大学客員教授理工学部海洋建築工学科

工博 宇多高明

Dr. Takaaki Uda

まえがき

- 七里ヶ浜では、2024年4月末までに約2,000 m³の土砂による養浜が行われた。
- 養浜箇所は七里ヶ浜のほぼ中央部にある駐車場の東側隣接部であり、前年度行われた盛り土養浜の残留土砂の一部を汀線側に押し出して搬入路とし、この搬入路上において駐車場まで運搬した土砂をキャタピラーダンプで輸送する方式で行われた。
- 七里ヶ浜東部では、侵食が進んできた結果、汀線に沿って露岩域が広がってきているが、そのような場所で盛り土養浜が行われた。養浜後、波の作用により養浜砂の流出が始まったことから、2024年5月31日、盛り土の流出状況を現地調査により調べた。図-1には駐車場から稲村ヶ崎間の調査区域の拡大衛星画像と写真撮影地点（St.1～St.16）を示す。

2024年3月16日

相模湾



図-1 七里ヶ浜の衛星画像と写真撮影地点 (St.1～St.16)



写真-1



写真-2



写真-3

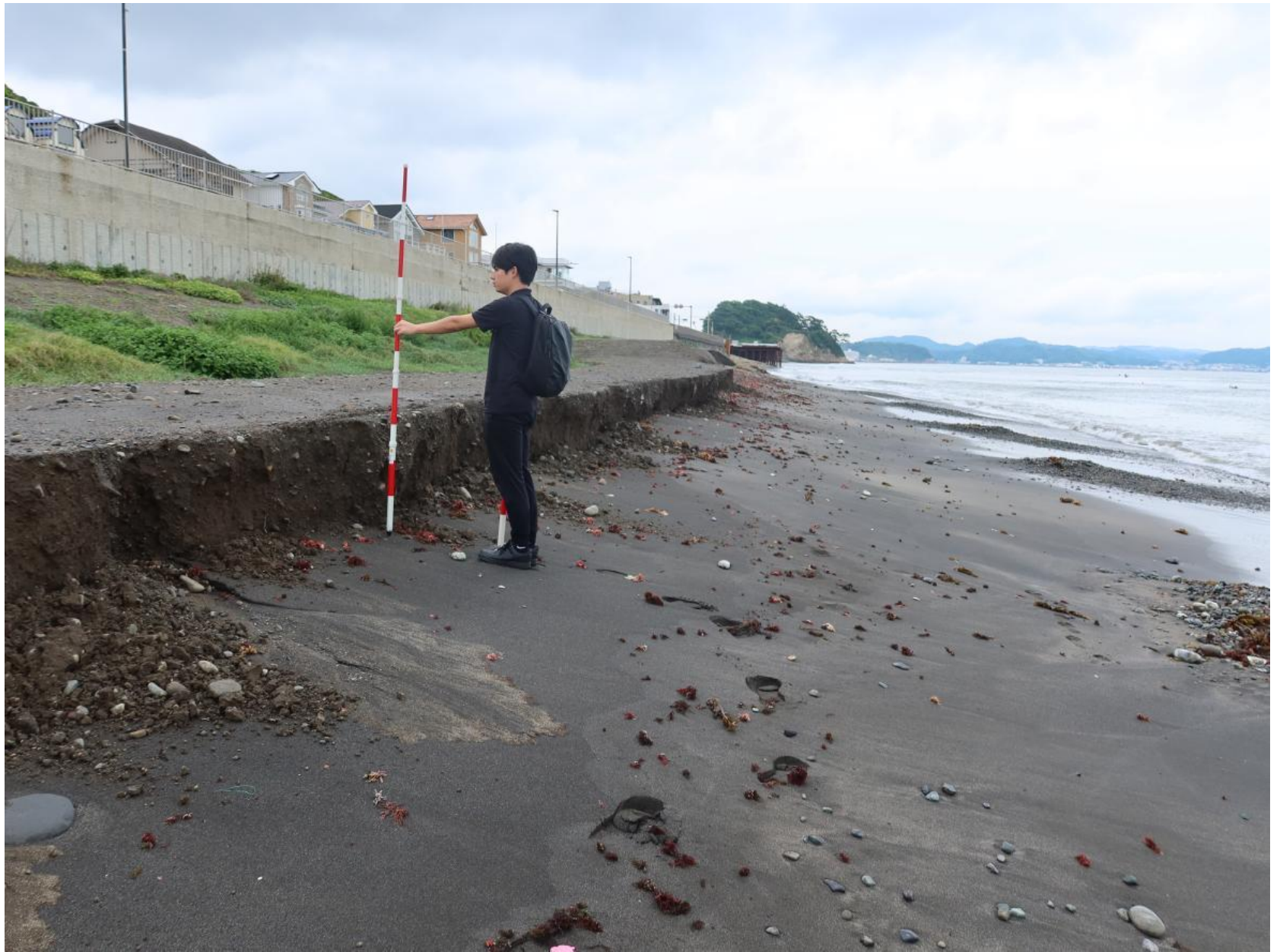


写真-4



写真-5



写真-6



写真-7



写真-8



写真-9



写真-10



写真-11



写真-12



写真-13



写真-14



写真-15



写真-16

まとめ

七里ヶ浜での養浜後の現地調査の結果は以下に要約される。

- 七里ヶ浜のほぼ中央部にある駐車場の東側隣接部で行われた盛り土養浜では、投入土砂は波の作用で浜崖を形成しつつ削られた。その場合、形成された浜崖は駐車場に近い場所では比高が低く、駐車場から東側に距離が離れるに従い比高が増大し、盛り土の変形量が大きかった。
- 図-1に示したように、養浜前の状態において、駐車場東側の約190 m間は、浜幅が約 22 mと広がったが、St.7付近より東側では浜幅が約6 mまで急激に狭まっており、このため1/2勾配で盛られた盛り土ののり先に波が作用しやすく、結果的に土砂の流出が著しかったと考えられる。

まとめ

- 一方で、St.7より西側で浜幅が約20 mと広い場所では、浜崖を形成して盛り土から削り取られた土砂は、汀線付近に堆積していることが養浜後にビーチカスプが形成されていたことから明らかになった。
- 砂礫がビーチカスプを形成して堆積していたことは、少なくとも汀線付近が堆積傾向になっていたことを表す一つの証拠にはなる。
- 今回の養浜により浜崖を形成して削り取られた土砂量は小さかったため、汀線付近にとどまり明瞭な形でバームが形成されるまでには至らなかったが、今後も養浜を継続して土砂量が増加すれば徐々に前浜が広がると推定される。